



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 マルハニチロ株式会社  
 コード番号 1333 URL <http://www.maruha-nichiro.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤 滋  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 阿部 富寿夫 TEL 03-6833-0826  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	708,398	4.9	21,991	△13.7	25,101	△4.7	15,702	△5.8
29年3月期第3四半期	675,379	△1.1	25,474	70.4	26,326	63.5	16,671	84.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 20,792百万円 (64.0%) 29年3月期第3四半期 12,678百万円 (60.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	298.34	—
29年3月期第3四半期	316.73	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	565,550	139,893	20.4
29年3月期	501,303	122,820	20.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 115,597百万円 29年3月期 100,664百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	—	—	45.00	45.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

29年3月期期末配当金の内訳 普通配当40円00銭 記念配当5円00銭

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	910,000	4.2	24,000	△8.8	27,500	△1.3	15,500	0.3	294.50

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、〔添付資料〕P. 7 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	52,656,910株	29年3月期	52,656,910株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	26,274株	29年3月期	23,097株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	52,632,343株	29年3月期3Q	52,637,729株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスク等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、〔添付資料〕P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は平成30年2月5日（月）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に企業収益は堅調に推移しておりますが、当社グループ関連業界におきましては、人手不足による人件費や物流費の上昇リスクが顕在化し、また水産物需要の世界的な高まりに伴い買付競争が厳しく、依然として予断を許さない状況が続いています。

このような状況のもと、当社グループは、中期4ヵ年経営計画「Challenge toward 2017 (2014-2017)」の最終年度を迎えましたが、持続的成長の実現と中長期の企業価値向上に向けて、完全養殖マグロ事業の拡大、グローバル領域における収益拡大、及び冷凍食品を生産する新石巻工場の稼働など、「成長路線の遂行」に引き続き取り組んでまいりました。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は708,398百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は21,991百万円（前年同期比13.7%減）、経常利益は25,101百万円（前年同期比4.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15,702百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 漁業・養殖事業

漁業・養殖事業は、国内外の水産資源の持続可能かつトレーサビリティの確保できる供給源として、効率的な操業により収益の確保に努めました。

当第3四半期連結累計期間は、漁業における魚価上昇及び養殖事業における出荷増により増収となりました。またカツオの魚価高や国内外の好調な漁獲により漁業の利益率が改善した結果、漁業・養殖事業の売上高は29,433百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は2,267百万円（前年同期比19.3%増）となりました。

#### 商事事業

商事事業は、国内外にわたる調達・販売ネットワークを持つ「水産商事」「畜産商事」、市場流通の基幹を担う「荷受」、及び量販店、コンビニエンスストア、生協、外食などの業態に特化した「業務用食品（商事）」から構成され、国内外の市場動向を注視しながらお客様のニーズに対応した的確な買付販売と水産加工事業の強化により、収益の確保に努めました。

「水産商事」は、主要魚種の多くが高値圏にあるなか、冷凍魚・エビなどを中心に原料・加工品の販売が好調に推移したものの、浜値高や円安による調達コスト増加の影響もあり、増収減益となりました。

「荷受」は、鮮魚・冷凍魚ともに単価高が続くなか、天候不順などに起因する不漁も影響し、集荷面では引き続き苦戦を余儀なくされ、また販売面も単価高から全般的に低調で利幅の取りにくい状況が続き、減収減益となりました。

「畜産商事」は、牛肉、豚肉、鶏肉、加工品の取扱数量増加の一方で、加工品、鶏肉、飼料原料の利益率低下により、増収減益となりました。

「業務用食品（商事）」は、コンビニエンスストア、外食向け等を中心に販売が堅調に推移し増収となりましたが、原料コストの上昇に加え、マグロ加工事業の苦戦が影響し減益となりました。

以上の結果、商事事業の売上高は370,616百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は5,462百万円（前年同期比30.8%減）となりました。

#### 海外事業

海外事業は、中国・タイにおける水産物・加工食品の販売に加え、オセアニアでの基盤を強化している「海外」、すりみ等の生産を中心とした北米商材の日本・北米・欧州での販売を展開する「北米」から構成され、水産物と加工食品の世界的な需要拡大に対応し、グローバル市場における収益の確保に努めました。

「海外」では、豪州漁業会社の漁獲物販売、タイで製造する水産冷凍食品の欧米向け輸出及び日本からの水産物・食品輸出が増加しましたが、タイで製造するペットフードの原料価格高騰等により、増収減益となりました。

「北米」は、北米鮭鱈の生産増、カナダズワイカニの取扱増加、欧州水産物販売会社の販売が堅調に推移したものの、米国ベーリング海のズワイカニの生産減（バルダイ種の禁漁及びオピリオ種の減枠）、冷凍鱈の相場下落により増収減益となりました。

以上の結果、海外事業の売上高は121,616百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は5,946百万円（前年同期比17.7%減）となりました。

### 加工事業

加工事業は、家庭用冷凍食品の製造・販売を行う「家庭用冷凍食品」、缶詰・フィッシュソーセージ・ちくわ・デザート・調味料・フリーズドライ製品等の製造・販売を行う「家庭用加工食品」、業務用商材の製造・販売を行う「業務用食品（加工）」、及び化成品の製造・販売を行う「化成」から構成され、お客様のニーズにお応えする商品の開発・製造・販売を通じて収益の確保に努めました。

「家庭用冷凍食品」は、麺、米飯類などの主食系商品やアクリブランド品の販売増により増収となりましたが、利益は新規設備投資の償却増による影響で減益となりました。

「家庭用加工食品」は、缶詰が前年の震災需要の反動で減収となったものの、フィッシュソーセージ等の販売が好調であったことに加えて原料コストや生産性の改善により、増収増益となりました。

「業務用食品（加工）」は、介護食、コンビニエンスストア等の取り組み強化に加え、自社工場製品の販売伸長により増収となりましたが、原料高や円安による調達コストの増加等が影響し減益となりました。

「化成」は、健康食品の輸出減少のほか、鮭不漁に伴う原料不足でプロタミン・DNAの販売を調整したこともあり、売上高は前年並みながら、引き続き機能性表示食品制度を追い風としたDHA・EPAの販売が好調に推移し増益となりました。

以上の結果、加工事業の売上高は164,671百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は5,102百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

### 物流事業

物流事業は、輸配送コストが高止まりするなか、安定的な車輛調達と取扱貨物の集荷拡大に努めました。

当第3四半期連結累計期間は、前期に稼働した出水物流センターに係る減価償却費の増加や電力料等のコスト上昇があったものの、冷蔵保管事業、輸配送事業ともに貨物の取扱数量が増加し堅調に推移したことにより、売上高は12,097百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は1,495百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は565,550百万円となり、前連結会計年度末に比べ64,247百万円増加いたしました。これは主として売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

負債は425,656百万円となり、前連結会計年度末に比べ47,174百万円増加いたしました。これは主として仕入債務及び借入金の増加によるものであります。

非支配株主持分を含めた純資産は139,893百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,073百万円増加いたしました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月8日に公表いたしました平成30年3月期通期連結業績予想につき、第3四半期連結累計期間の業績を勘案し、今後の経済状況、販売動向を予測した上で、下記の通り修正いたします。

(平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	900,000	24,000	25,000	13,500	256円50銭
今回修正予想(B)	910,000	24,000	27,500	15,500	294円50銭
増減額(B-A)	10,000	—	2,500	2,000	—
増減率(%)	1.1%	—	10.0%	14.8%	—
(参考)前期連結実績 (平成29年3月期)	873,295	26,308	27,874	15,446	293円44銭

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,769	15,363
受取手形及び売掛金	103,686	150,614
たな卸資産	149,609	160,875
その他	12,626	14,445
貸倒引当金	△720	△513
流動資産合計	278,970	340,784
固定資産		
有形固定資産		
土地	49,813	49,065
その他(純額)	90,201	91,710
有形固定資産合計	140,014	140,776
無形固定資産		
のれん	10,148	9,297
その他	12,201	12,466
無形固定資産合計	22,349	21,763
投資その他の資産		
投資その他の資産	64,445	66,729
貸倒引当金	△4,478	△4,504
投資その他の資産合計	59,967	62,224
固定資産合計	222,332	224,765
資産合計	501,303	565,550
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,078	49,585
短期借入金	149,036	174,567
引当金	1,649	1,305
その他	42,449	44,779
流動負債合計	226,214	270,237
固定負債		
長期借入金	123,172	126,502
退職給付に係る負債	21,844	21,591
引当金	91	160
その他	7,160	7,164
固定負債合計	152,267	155,418
負債合計	378,482	425,656
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	39,767	39,757
利益剰余金	33,789	47,122
自己株式	△45	△55
株主資本合計	93,511	106,824
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,018	8,361
繰延ヘッジ損益	42	30
為替換算調整勘定	42	253
退職給付に係る調整累計額	49	126
その他の包括利益累計額合計	7,152	8,772
非支配株主持分	22,156	24,296
純資産合計	122,820	139,893
負債純資産合計	501,303	565,550

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	675,379	708,398
売上原価	575,138	610,237
売上総利益	100,240	98,160
販売費及び一般管理費	74,766	76,169
営業利益	25,474	21,991
営業外収益		
受取配当金	1,164	1,080
雑収入	2,525	3,753
営業外収益合計	3,689	4,833
営業外費用		
支払利息	1,487	1,381
為替差損	724	—
雑支出	625	341
営業外費用合計	2,837	1,723
経常利益	26,326	25,101
特別利益		
投資有価証券売却益	52	767
関係会社株式売却益	95	—
その他	113	134
特別利益合計	261	901
特別損失		
固定資産処分損	260	368
減損損失	57	504
その他	258	101
特別損失合計	575	974
税金等調整前四半期純利益	26,011	25,028
法人税等	6,668	6,707
四半期純利益	19,343	18,320
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,671	2,618
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,671	15,702

## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	19,343	18,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,130	1,373
繰延ヘッジ損益	139	△11
為替換算調整勘定	△8,465	1,038
退職給付に係る調整額	134	82
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,603	△10
その他の包括利益合計	△6,664	2,472
四半期包括利益	12,678	20,792
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,085	17,322
非支配株主に係る四半期包括利益	592	3,470



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	漁業・ 養殖	商事	海外	加工	物流	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	28,194	354,092	110,373	161,213	11,840	665,715	9,663	675,379	—	675,379
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	9,412	11,275	30,606	4,272	4,519	60,086	305	60,391	△60,391	—
計	37,606	365,368	140,980	165,486	16,360	725,801	9,968	735,770	△60,391	675,379
セグメント利益	1,900	7,888	7,229	5,911	1,461	24,391	1,008	25,399	74	25,474

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業及び毛皮・ペットフードの製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額74百万円には、セグメント間取引消去△138百万円及び全社費用配賦差額212百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	漁業・ 養殖	商事	海外	加工	物流	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	29,433	370,616	121,616	164,671	12,097	698,435	9,962	708,398	—	708,398
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	9,741	11,533	25,928	3,924	4,688	55,815	344	56,159	△56,159	—
計	39,175	382,150	147,544	168,595	16,786	754,251	10,306	764,558	△56,159	708,398
セグメント利益	2,267	5,462	5,946	5,102	1,495	20,273	876	21,150	841	21,991

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業及び毛皮・ペットフードの製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額841百万円には、セグメント間取引消去130百万円及び全社費用配賦差額710百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。